

# 令和5年度 花園小学校の教育目標・経営方針・重点

令和5年4月1日

小樽市立花園小学校  
校長 若林 晋

## 1 学校経営の基本方針（基本コンセプト）

令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止に伴う、新しい生活様式を前提としつつ、徐々に通常の学校経営、学校運営に近い形となった。社会もウイズコロナ政策により行動制限が解除され人々の生活もコロナ禍前の生活に戻りつつある。同時にICTの活用は急速に進み、「令和の日本型教育」に基づく、「個別最適な学び」を中心として、学校教育の意義や学校の在り方、既存の教育活動の見直しが不可欠となっている。そのため、学校には、一人一人の良さと可能性を伸ばし、新しい時代に求められている資質・能力を確実に育成することが必要である。

昨年度の児童質問紙調査、保護者アンケート等の結果から、「自己肯定感の高まり」「前向きな行動意識の醸成」「家庭学習習慣の定着」の評価が十分ではなかった。このことを踏まえ、今年度は、子どもたちが、自ら学び、自分がかげがえのない存在であること、他人を思いやる心や感動する心を持つ豊かな人間として育ち、主体的に生きていくための教育活動を展開していくことが重要と考える。

私たちはこの課題解決のために、創意と活力に満ちた教職員集団をめざし、教育の専門家として高い使命感、改善への意欲と態度、その具体的解決への方策を策定し実施する必要がある。教育活動の重点化と働き方改革の両輪をバランスよく図りながら、学校組織を整え、個々の創意工夫を生かし、実効性のある学校経営・学校運営を充実させたいと考える。

令和5年度の花園小学校の学校経営では、以下の4つの観点を大切に進める。

- (1) 【小中一貫】小中共通の目標である「明日を創る力を育む」のもと、花園小学校と菁園中学校がともに、9年間で子どもを育てるという意識を共通理解し、学校と家庭・地域と連携し、教育活動を推進する。
- (2) 【組織的な学校運営】教職員全てが組織の一員であるという自覚をもち、各分掌に役割と責任を意識した学校経営・運営を推進する。
- (3) 【教育活動の充実】「授業改善」「学習環境の充実」「ICTの活用」「家庭学習の充実」に関する課題解決のために、児童の実態に基づく、目標指数を定め、教職員全てが同じ方向で揃える指導を行う。
- (4) 【自己肯定感】様々な教育活動の中で、児童が個性を生かし、自信をもてる「場」づくりを意図的・計画的に設定し、自他を認め「自己肯定感」を高める教育活動を充実させる。

## 2 学校のミッション・校長のビジョン

- (1) 法令に定められた学校教育の目的や学習指導要領に示された目標及び「小樽市教育推進計画」などに示された理念や方針の達成を前提として、本校児童の実態を考慮しながら具現化を図る。
- (2) 子どものよさや可能性を伸ばすことを最大の目標（＝個別最適化の教育の実施）とし、本校の学校教育目標の具現化をめざし、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かで明るい児童の育成に努める。
- (3) 小樽市の公教育に携わる全教職員は、深い教育愛と情熱をもって子どもの個性を伸ばし、可能性を最大限に引き出す使命を果たす。
- (4) 保護者や地域の信託に応え、地域に開かれた学校として、新時代に対応した義務教育の在り方について、本校教育の充実をめざして全教職員の英知を結集して、活力ある学校経営に努める。

## 3 学校教育目標（平成24年4月の量徳小学校との統合を機に新しい教育目標を制定）

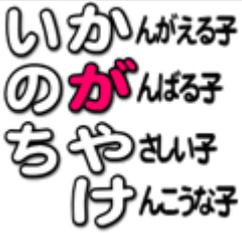
- ・自他を尊重する態度を育成することを大切にし、本校の教育活動原点である「命」を中心とする教育活動を推進する。

4 めざす学校像・教師像・子ども像

＜教育目標＞

**笑顔いっぱい いのちかがやけ花園の子**  
命の教育を基盤とする「子どもも教師もいのちかがやく学校」

5 本年度の重点目標

|  |   |  |
|--|---|--|
| めざす学校像   | ◆子どもたちが安心して自分の力を発揮できる学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸び伸びと過ごせる楽しい学校</li> <li>・学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが受け入れられる学校</li> <li>・子どもたちの好ましい人間関係や教師との信頼関係がある温かい学校</li> </ul>  |
| 【働き方改革の視点を大切にした学校像】<br>◆教員一人一人がワークライフバランスを意識し、誇りとやりがいを持って働くことができ、教員が自らを磨きながら子どもたちと十分に向き合うことができる環境によって、効果的で質の高い教育活動を継続できる学校 |   |  |
| めざす教師像   | ◆「教えたい」から「育てたい」へ意識改革することのできる教師  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化を前向きに受け止め、求められる知識・技能を意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続ける教師</li> <li>・子どもや保護者の気持ちに共感する、信頼される教師</li> <li>・子どもをよく理解し、一人一人を大切にする教師</li> <li>★個別最適な学びを進める教師</li> </ul> |
| めざす子ども像  |  | ・自ら進んで学び、考え判断し、行動できる子ども  |
|  |   | ・自分のめあてにチャレンジし、成長する子ども   |
|  |   | ・自分の良さを知り、友達のよさを認め合い助け合う子ども  |
|  |   | ・自他の命を尊重し、健康や安全に気をつける子ども   |



令和5年度・重点教育目標  
**小樽市立花園小学校**

# わかるできる!

# 花園の子

明日を創る力を育む花園小学校  
(小中9年間の共通目標)

キーワード 『子どもも教師も わかる できる』

6 花園小学校重点教育目標を達成するために

|   |
|---|
| <p>「結果をつなぐ」～実践の結果を目標につなぎ、方策を紡ぐ<br/> 「情報をつなぐ」～情報を細かに共有し信頼の絆を高める<br/> 「組織をつなぐ」～子ども・保護者・地域・菁園中学校との関連を高める<br/> 「郷土をつなぐ」～地域の教育資源を教育課程につなぐ<br/> 「可視化する」～経験知や暗黙知で語られてきた教育を可視化、定量化し、客観的な根拠をもって改善につなげる</p> |
|---|

7 学びたい・学ばせたい・働きたい学校にするために

|              |        |
|--------------|--------|
| 目指す姿を実現するために | 具体的な方策 |
|--------------|--------|

|   |  |
|---|--|
| <p>&lt; 信頼される学校 &gt;</p>  |  |
| <p>全ての教育活動の基盤として、子どもたちの好ましい人間関係や子どもたちと教職員の信頼関係を確立し、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような学校を目指す。<br/> 子どもの豊かな個性や多様な能力を育むために、教職員が子ども一人一人をかけがえない存在としてとらえ尊重するとともに、教職員間の協働性を高めていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動は、「教育目標の達成のために」を合い言葉とする。</li> <li>・学級間、学年間、9年間を見通した「学習規律」「生活規律」の共通実践を徹底します。</li> <li>・生徒指導の機能を高め、自己肯定感を高めるために、耳を傾ける・褒める・声をかけるなどを意識した学級経営を行う。</li> <li>・いじめ防止に向けた取り組みを徹底し、いじめのない安心で安全な学校づくりを進める。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <p>&lt; 外の風が入る学校・風を外に送り出す学校 &gt;</p>                                |  |
| <p>学校運営協議会（コミュニティースクール）の組織体制を整え、学校、保護者、地域の方々が一体となって子どもたちを育てていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な情報提供、情報交換により、学校と家庭、地域の方々との願いの共有を図り、協働の場を設けるよう努める。</li> <li>※具体的な支援や連携にむけたコミュニティースクールの組織づくり。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <p>&lt; 教師が育つ学校 &gt;</p>  |  |
| <p>教えるものは学ばなければならないことを常に心がけ、専門性はもちろん、人間力の向上を目指す。<br/> また、共通の目標、協働、コミュニケーションの3点を意識し、教え合い、支え合う同僚性を構築する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・花園小学校から「自ら意欲的に学び、互いのよさを認め合う授業」について発信する。</li> <li>・教職員の自律性を高めるため「気付き力」「段取り力」「見通し力」の育成に努める。</li> <li>・きょうどう（共同、協働、教導、協同）を大切にして「チーム花園小学校」をつくる。</li> </ul> |

< 働き方改革を進める学校 >

全教職員の共通理解のもと、働き方の改善に向けた取り組みを行う。そのためには、勤務時間を意識した働き方を進め、教職員一人一人の意識を変えるよう促す。

- ・精選・見直し可能な行事をリストアップし、教育課程に具現化する。（対負担・対時間効果の視点で本当に必要なものだけを残す業務改善へ）

< 小中一貫教育を進める学校 >

学びの連続性による学力向上と個別最適な学びを保障する小中一貫教育を進める。また、小中においては、年度毎の重点目標を定め、共に育むべき力を明確にする。

- ・菁園中学校と小中一貫教育グランドデザインを共有し、共通のめざす子どもの姿として学校経営を進める。
- ・小中一貫教育推進委員会を中心として、意図的・計画的・構造的な取組を展開する。

8 発達段階における学校の教育目標の具体的な子どもの姿

|                            |    |  |  |  |   |
|----------------------------|----|--|--|--|---|
| 笑顔いっぱい！<br>いのちかがやけ<br>花園の子 |    | 【笑顔いっぱい！】<br>かけがえのない一人の人間として大切にされ、安心して自分の力を発揮し、自己の成長が実感できる子どもの育成をめざす。  |  |  |   |
|                            |    | 【いのちかがやけ花園の子】<br>人間が精一杯頑張っている姿は輝いて見える。自分を大切にし、他の人も大切にしながら、自分の夢や目標に向かって一つ一つのことによって一生懸命取り組むことができる子どもの育成をめざす。   |  |  |   |
| めざす子ども像                    |    | かんがえる子<br>自ら進ん学び、考え判断し、行動できる子ども  | がんばる子<br>自分のめあてにチャレンジし、成長する子ども           | やさしい子<br>互いのよさを認め合い助け合う子ども                     | けんこうな子<br>自他の命を尊重し、健康や安全に気をつける子ども           |
| 価値                         |    | 自主性、思考力、創造力、向上心、探求心、創意工夫、積極性、意欲、判断力、表現力  | 根気強さ、忍耐力、意志力、向上心、勤労意欲、責任感、自主性、努力         | 思いやり、寛容、公共心、自然愛、郷土愛、人間愛、協調性、規範意識、国際理解、責任感、公平公正 | 生命尊重、健康安全、基本的な生活習慣、明朗快活、整理整頓"               |
| 低学年<br>慣れる                 | 特徴 | 幼児期からの自己中心性が残る時期であり、児童の思考も具体的で、論理的・抽象的な思考は未成熟である。対人関係も行動範囲が狭く、家庭・学校が中心で集団行動にも未熟な時期である。この時期に集団生活に慣れさせ、集団で行動するための様々な行動様式を身につけさせることが重要である。また、低学年の後半になると、集団生活における自他との関係を認識することができ、社会性の発達を促す指導が必要である。 |  |  |   |
|                            | 指標 | 基礎・基本を身につけ、話をしっかり聞き、自分の考えを表現することができる。  | 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行うことができる。       | 学校生活の約束を身につけ、友達と仲良くし、助け合うことができる。               | 健康や安全に気をつけ、わがままをしないで規則正しい生活ができる。            |
| 中学年<br>伸ばす                 | 特徴 | 少年少女期に入り、集団生活が急速に活発になり、身近な人々の人間関係もわかり自己反省もできるようになる。また、仲間との行動を通して、遊びや生活のルールを決め守るようになる。この時期には、集団生活の中で自己を伸ばすことが重要である。   |  |  |   |
|                            | 指標 | 基礎・基本を確実に身につけるとともに、友だちと協力し、認め合いながら、自分の思いや考えを表現することができる。  | 自分でやろうと決めたことは、積極的に取り組み、ねばり強くやり遂げることができる。 | 友だちと互いに理解し、信頼し、助け合うことができる。                     | 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をするすることができる。 |
| 高学年<br>伸ばす                 | 特徴 | 自分の行動は自分で決めようとする自律的傾向が強くなってきたり、社会性や情緒面の発達も著しくなったりする。また、所属集団における自己の役割や責任も自覚するようになるが、集団の質が望ましいものでない場合、反社会的行動へと傾向が現れてくる。この時期には、児童の個性を伸ばし、自己存在感を与え、有用感、成就感を持って自ら励むための力を身につけさせてやることが重要である。            |  |  |   |
|                            | 指標 | 基礎・基本を確実に身につけ、自分の考えをもち、意欲を持って学び合い、高まり合うことができる。   | より高い目標を立て、勇気と希望をもってくじけないで努力することができる。     | 互いに信頼し、学び合って友情を深め、仲良く協力して助け合うことができる。           | 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることができる。   |

## 9 花園小学校の教職員としての具体的な姿

| 具体的な姿   | キーとなる資質・能力                       | 教職員層  |            |
|---|----------------------------------|---|------------|
| 教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を常に持ち続ける花園小学校の教職員 | 使命感や責任感・倫理観                      | ・教育公務員として順守すべき法令や職務等を理解する。<br>・法令などで定められた職務上の義務を果たす。  | 初任         |
|   | 教育的愛情                            | "・子ども一人一人のよさや可能性に目を向け、それを伸ばす。"  | 初任         |
|   | 総合的な人間力                          | "・社会体験や保護者、地域とのかかわりの中で、人間性、社会性、協調性を高める。"  | ベテラン       |
|   | 教職に対する強い情熱・人権意識                  | "・教職への誇りをもち、人権意識に基づき、教育活動においてすべての子どもを尊重する姿勢をもつ。"  | 中堅         |
|   | 主体的に学び続ける姿勢                      | ・情報収集や各種研修会などを通して、必要な資質能力を身につける。  | 全教職員       |
| 教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む花園小学校の教職員      | 子どもの理解力                          | ・子どもに積極的にかかわり、子ども一人一人の資質や環境を含めて的確に子どもを捉える。  | 全教職員       |
|   | 教科等や教職に関する専門的な知識・技能              | ・教職の意義や教員の役割、職務内容に関する知識を身につけ、職務に生かす。<br>・学校種や職種に関する専門的な知識・技能を身につけ、教育活動に生かす。   | 初任         |
|   | 実践的な指導力                          | ・学習指導要領などを踏まえ、ねらいを明確にした指導案を作成し、意図的・計画的に授業を展開する。(授業力を高める)<br>・個や集団を指導するための手立てを理解し、実践にいかす。また、子ども同士のコミュニケーションを促進し、計画的に望ましい集団をつくり上げる。(生徒指導・進路指導力を高める)<br>・子どもの個性や能力の伸長と健全な心身の育成を通して自己実現を図る行動を行う。(学級経営力を高める) | 全教職員       |
|   | I C T 機器の活用による効果的な学習指導力と効率的な業務推進 | ・I C T 端末(クロームブック)を活用した効果的な授業や家庭学習を進める。<br>・I C T 校務支援システム(C4th)を活用した効率的なデータ活用による業務推進を行う。   | 全教職員       |
| 学校づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む花園小学校の教職員 | 学校作りを担う一員としての自覚と協調性              | ・職業観や人間関係のほか、公共心や社会通念などの重要性を理解し、それに基づき行動する。   | 中堅<br>ベテラン |
|   | コミュニケーション能力(対人関係能力を含む)           | ・考えや学校の方針などをわかりやすく伝えるとともに、相手の意図を理解し、意思の疎通を図る。   | 初任         |
|   | 組織的・協働的な課題の対応・解決能力               | ・他の教職員と積極的にかかわりながら、本校で求められている役割を果たす。  | ベテラン       |
|   | 地域等との連携・協働力                      | ・保護者や地域等とのかかわりを深め、連携・協働して取り組む。  | 中堅         |
|   | 菁園中学校との連携                        | ・共通する子ども像の実現に向けて、小中一貫教育を組織的に具体的に進める。  | 全教職員       |
| 人材育成に貢献する                                       | ・支え合う環境をつくるとともに、他の教職員を積極的に支援する。  | ベテラン  |            |

10 菁園中学校との小中一貫教育の推進

小中9年間の共通目標（菁園中学校教育目標）  
『明日を創る力を育む』

花園小・菁園中のめざす児童・生徒像（子どもにつけたい力）

|                                      |                                       |                                      |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| つくる・協働力<br>◇互いを尊重しながら、力を合わせ、目標に取り組む力 | うごく・対応力<br>◇状況を捉え、よりよい方向や解決をめざして行動する力 | つたえる・対話力<br>◇自らの考えを発信し、建設的な話し合いを進める力 | みとおす・設計力<br>◇状況を捉え、結果を見通して、計画し、調整できる力 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|

小学校1・2・3年

|   |                                    |  |                                       |
|---|------------------------------------|--|---------------------------------------|
| ◆互いに信頼し合い、助け合いながら活動し、よりよいものを目指して、築き上げることができる。 | ◆自分の生活を振り返り、節度を守り、人や物を大切にすることができる。 | ◆友だちの考えと自分の考えの共通点や相違点を考えながら聞き、意欲をもって高まり合うことができる。 | ◆自己の役割や責任を自覚し、目標に向かって最後までやり遂げることができる。 |
|---|------------------------------------|--|---------------------------------------|

小学校4・5・6年

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| ◆相手の気持ちを考えて行動したり、友達と助け合ったりしながら、学習や仕事などを行うことができる。 | ◆自分の考えを相手にきちんと伝え、ルールを守りながら規則正しく生活することができる。 | ◆話を最後までしっかりと聞き、自分の考えを相手にきちんと伝えることができる。 | ◆明るく気持ちのよい挨拶をするなど、集団で行動するための様々な行動様式を身につける。 |
|--|--|--|--|

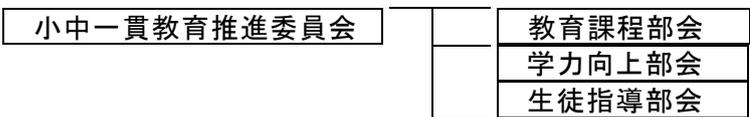
中学校1・2・3年



4つの力を育むための教職員の『3Aアクション』

A1 研究する～「徹底した授業改善と教材研究」  
 A2 指導する～「児童生徒のそばで、教え、導き、気付かせる指導」  
 A3 場をつくる～「児童生徒の経験値知を高める場の設定」  
 （学習指導要領「育成を目指す資質・能力の3つの柱」）

<菁園地区小中一貫教育推進委員会組織図>



◆ 小樽市学校教育推進計画と本校の具体的な取組 ◆

(1) 未来を創る力の育成 ※「主体的・対話的で深い学びの視点によるチーム授業改善」

① 確かな学力の育成

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「自ら課題をつかみ、思考し、表現し合う」ための授業改善として、教師が認め、ほめ、価値づけることを通して、児童の自己肯定感を高め学習に対する意欲を一層高める。

- ◆全国・学力学習状況調査（6年）、標準学力調査（3・5年）において、国語・算数は、全道平均以上とする。
- ◆全国・学力学習状況調査や児童アンケートにおいて「平日、家庭学習を全くしない」と回答する児童を0%とする。（R4全国学力学習状況調査 6.4%）
- ◆5年生において、学校力向上推進事業による稲穂小学校教員が教科（算数）担当し、を実施し、効果的な学習を実施する。

② 特別支援教育の充実～障がいのある子どもの学びの場の整備・連携強化

◇（特別支援教育の視点から）多様性を認め合い、活かすことをめざして

◇入学前からの取組を活かして「つながる」「共有する」

- ・特別な教育的支援を必要とする児童一人ひとりのニーズを把握し、適切な支援を受けられるよう、特別支援教育コーディネーターを中心として、関係機関と連携を図り、特別支援教育を組織的に指導する。

- ◆対象となる全児童の「個別の指導計画」の作成と「個別の教育支援計画（後志版）」を整備し、活用する。（関係機関との連携強化による切れ目のない支援の充実）

③ 国際理解教育の充実

- ・児童に対して、中学校連携教員（専科教員）と共に学ぶ機会を有効活用し、英語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうする態度の育成に努めるとともに、国際理解を深める教育を進める。

- ◇3～6年生において、中学校教員（専科教員）による専門的な質の高い外国語授業（活動）を実施する。
- ◆3～6年生において、ALTと専科教員を効果的に活用した外国語授業（活動）を工夫して実施する。

④ 理数教育の充実

- ・児童に対して、問題解決的な学習を基本に探究の過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組むとともに、日常生活や社会との関連を図るよう努める。

- ◇6年生において、学校力向上推進事業による、中学校教員（専科教員）による専門的な質の高い理科の授業を実施する。
- ◆「算数の勉強が好きですか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する児童の割合が80%以上とする。（R4全国学力学習状況調査 81%）
- ◆「理科の勉強が好きですか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する児童の割合が80%以上とする。

⑤ 情報教育の充実

～GIGAスクールの日常化と学びを止めないICTの積極的な活用

- ・新しい時代の学びを支える環境整備と教師のICT活用指導力の向上を図る。
- ・メディアに関する家庭のルールづくりを推奨する。

- ◆全学年でICT端末（クロームブック）を全教科で活用を進める。
- ◆各家庭におけるメディア（ゲーム）使用時間を制限した基本的生活習慣を確立する。（R04児童質問紙調査：平日にゲームを3時間以上する児童35%）

★臨時休業時等に学校と児童との関係を継続し、学びを保障するための取組を行う。

◇情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づける。  
（新学習指導要領）

○情報活用能力の育成 ○教科等の指導におけるICTの活用 ○校務の情報化の推進

## ⑥ キャリア教育の充実

- ・「ふるさと小樽」の良さに気付くとともに、学ぶことや働くことの意義を理解し、望ましい職業観・勤労観を育てるため、様々な体験活動を実施するとともに、「キャリアパスポート」の有効活用を図る。

◆全学年で職場体験や外部専門家等を指導者や講師とする出前授業等を活用したキャリア学習を実施する。

◆全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば持っている」と回答する児童の割合が80%以上とする。

(R04 児童質問紙調査：将来の夢・目標について肯定的な回答の児童 71%)

## (2) 豊かな心の育成

### ① 道徳教育の充実

- ・道徳教育推進教師を中心に特別の教科道徳（道徳科）を実施し、答えが一つではない道徳的な課題を児童が自分自身の問題として捉え向き合う「考え、議論する道徳」へと質的転換を進める。

◆「いのちの日（1月27日）」に外部講師による「命の授業」を継続する。

◆全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがある」という質問に対して、「当てはまる」と回答する児童の割合が70%以上とする。

(R04 児童質問紙調査：自分には良いところがあるについて肯定的な回答の児童 61%)

### ② ふるさと教育の充実

- ・ふるさと小樽に対する興味・関心を持たせるため、地域教材（施設・人材・歴史）を活用した体験・調べ・観察学習等の重視とゲストティーチャーによる授業など「本物体験」教育を充実させる。また、小樽（花園）の自然や歴史、伝統、文化、産業などについて理解を深める学習を充実させる。（ふるさと教育）

◆全学年で地域教材（施設・人材・歴史・自然等）を活用した学習を実施する。

◆5年総合的な学習の時間でゲストティーチャーを活用するとともに「小樽の歴史」を10時間以上行う。

### ③ 読書活動の推進

- ・子どもの豊かな感性や表現力、創造力等を育むため、学級における朝読書の実施と積極的な音読学習、家庭での読書などの読書活動を推進し、児童の読書習慣の育成に努めるとともに、学校図書館における読書環境の充実を図る。

◆60%以上の児童が毎日、10分以上家庭で読書をする。

(R04 児童質問紙調査：平日一日あたりの読書時間 10分未満 45%)

### ④ 体験活動・ボランティア活動の推進

- ・豊かな人間性を育み、社会の一員としての自覚を深めさせるため、社会とかかわる活動や身近でできる社会に貢献する活動を通して、自ら働きかけようとする態度を育てる。

◆感染症防止対策を徹底した上で、町会と協力した※1「グリーンロード清掃」※2「潮ねりこみ」「砂まきボランティア」など、地域の環境整備などの社会貢献活動を実施する。※1・2は、R2・R3年度未実施、R4年度より再開

### ⑤ コミュニケーション能力の育成

- ・児童が自分の考えを持ち、表現しながら考えを形成・深化させたり、より良い人間関係を形成したりすることができるよう、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等における言語活動の充実を図る。

◆全国学力・学習状況調査において、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、肯定的に回答する児童の割合が80%以上とする。

(R04 児童質問紙調査：肯定的な回答 77%)

### ⑥ いじめの防止や不登校児童の支援の充実

- ・いじめ防止のための強調月間を設定するとともに、「ほっと」等のアンケートや個別面談を実施し、いじめや不登校等の早期発見・早期解決に努める。
- ・一人一人の命を大切にする教育を徹底し、自尊・他尊感情の育成を図る。

#### ◆いじめ0が当たり前の学校

(R04 児童質問紙調査：いじめについて否定的な回答の児童 100%)

#### ◆「手話教室」等の外部講師による人権や福祉に関する授業を実施する。

## (3) 健やかな体の育成

### ① 体力・運動能力の向上～運動の楽しさや喜びを実感させる体育的な活動の充実

- ・生涯にわたって運動に親しむための体力や運動能力を育成するため、体力・運動能力の育成と向上をめざし、体育の授業改善を進め、新体力テストなどを活用した体力づくりをする。

#### ◆全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力・運動能力において体力合計点が全道平均を上回る。

### ② 食育の推進

- ・食の知識や食習慣の理解を深めるための取組について食品を扱う企業や給食センターや栄養教諭と連携して食育を推進する。また、家庭と連携して児童の望ましい食習慣や生活習慣を定着させる。

#### ◆栄養教諭による「食育教室」を全学年で実施し、「食育だより」を発行し、児童・保護者に対して、食育を積極的に啓発する。

### ③ 健康教育の充実～生活習慣や運動習慣等を振り返り、具体的な改善

- ・子どもたちが生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう、薬物乱用防止教育など、外部の専門家等の積極的な活用等により、「健康教育」に取り組む。また、家庭との連携強化により、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）を推奨する。

#### ◆「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を児童の80%以上にする。

#### ◆外部講師を活用した「薬物乱用防止教室」を実施する。

### ★ 感染症対策の徹底

…「学校の新しい生活様式」に基づき、児童の教育を受ける権利を保障し、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で教育活動を継続していく。

## (4) 家庭・地域との連携・協働の推進

### ① 家庭教育支援の充実

- ・家庭と連携した学習習慣や基本的な生活習慣を確立させるとともに、アウトメディア・プロジェクト（メディアにふれる時間の制限）を推進する。
- ・作文や図画等のコンクール応募や※1音読カップ、小樽ポエムコンクール等への参加を奨励する。※1は、R2・R3年度未実施

#### ◆普段、授業以外に学年×10分+10分以上勉強している児童の割合が60%以上、全く勉強しない児童を5%以下とする。

(R04 児童質問紙調査：平日一日あたりの家庭学習が1時間以上の児童 52%)

#### ◆長期休業後に生活リズムチェックシートを活用した家庭学習の確立を中心とした基本的生活習慣の定着度を客観的に把握する。

### ② 学校と地域の連携・協働の推進

- ・学校運営協議会、PTA、地域と連携を図った学校支援ボランティアの活用や連携・運動を図った取組を充実させる。

#### ◆学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と連携し、具体的な活動を実施する。

## (5) 学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現

### ① 学校段階間の連携・継続の推進

- ・学びをつなげ、切れ目のない教育を進めるために「学校連携協議会」の取り組みにより、菁園中学校と連携し、「明日を創る力を育む」ために4つの力を意識しながら9年間を見据えた一貫教育を進める。

◆「菁園地区小中一貫教育推進委員会」の各部会（組織）の定期的な連携・協働を行う。

### ② 教育環境の整備・充実

- ・児童の視点に立った学校の教育環境の整備、教職員の視点に立った職場環境の整備に努め、感性を豊かにする。新型コロナウイルス感染症の感染リスクがゼロにならないことを前提に、感染リスクをできるだけ低減させながら、学校生活における学びを着実に継続させる環境整備を図る。

◆ICT機器（実物投影機やタブレット、校内Wi-Fiを活用した放送など）を効果的に活用する場面を増やす。

◆新型コロナウイルス感染防止対策の充実・見直し・改善を図る。

### ③ 教職員の資質・能力の向上

- ・スクールコンプライアンスの徹底による服務規律保持と迅速な危機対応をめざす。
- ・教育研究所や市内の実践校と連携した授業研究に取り組み、公開研究会を実施し授業改善に生かす。

◆体罰に関する調査で「体罰0」を継続する。

◆全教職員が校外研修会や研究会・講習会などに参加する。

◆市内を対象とした実効性のある公開研究会を実施する。

### ④ 学校運営の改善

- ・全ての教職員が、限られた時間の中で、専門性を生かしつつ、効果的な教育活動が実施できるよう、ICTの活用（校務支援システム、職員研修の効率化等）を中心とした業務効率化に向けた取組の充実を図る。
- ・教職員、個々の課題意識をふまえた目標設定を行い、客観的な記録を共有する。

◆職員会議や打合せ等の精選、合理化を進め、「一斉定時退勤日」の実行化を進める。

◆学校独自の小さな取組を積み重ね、在校等勤務時間45分/日の削減を進め、1か月について45時間/月（360時間/年）以下とする。

### ⑤ 学校安全教育の充実

- ・日常的な目配りや点検による危険防止と安全管理の徹底を図る。
- ・想定外を軽減する避難訓練を実施する。「いざは普段なり」
- ・校内及び登下校時の交通安全教育を充実させ、児童の危険回避能力を高める。

◆1・2年生において、交通安全教室・自転車安全教室を実施する。

◆年4回の想定（発生時間、災害種類、非通知、シェイクアウト訓練、小中合同避難訓練…）を変えた避難訓練を実施する。

★緊急連絡に関する保護者向けメール配信『花園小安心メール』と学校ホームページの有効活用により、安全情報に関して保護者と連携を密に行う。

## (6) 生涯学習との連携、文化芸術行事の参加、積極的なスポーツ参加

- ・「学校支援ボランティア」「おたる地域子ども教室」の積極的な活用を図る。
- ・市立図書館や総合博物館との連携や積極的な活用を進める。
- ・児童が文化芸術に親しむ機会を増やす。
- ・「おたる運河ロードレース大会」など、スポーツイベントへの参加を促進する。

◆2年の図書館見学、3年の総合博物館見学を継続して実施する。

◆水泳学習、スキー学習、長期休業中の学習日に学校支援ボランティアを活用する。

◆5・6年の札幌交響楽団コンサートに参加する。